



ジャパンマイコンカーラリー 2004

2004年1月11日、真冬の北海道で、マイコンカー（ライントレースロボット）による全国大会が催された。12の地区大会を経て選抜されたマイコンカーが、「高校の部」と「一般の部」に分かれて激戦を繰り広げたのだ。
当日の天候は、午前中は晴天、午後からは雪。マイコンカーにとっては厳しい条件と言えた。室内の明るさや温度、湿度がわずかながら変化中、前日からの大荒れの天候そのままに、優勝候補とうわさされていたマイコンカーは次々に敗れていった。
そんな中で地力を見せたのが、ジャパンマイコンカーラリー常連の香川県立三豊工業高校である。「高校の部」では生徒が、「一般の部」では先生が着実に勝ち上がり、双方の優勝とともに、上位を三豊工業勢が占めることとなった。

「ロボマガ」記者・城井田 勝仁きいだかつひと



高校の部

松本工業の「朱紅い羽根」がベストタイムをたたき出すも、安定感に勝る三豊工業の「LEVIN」が優勝をさらう！

ジャパンマイコンカーラリーの全国大会では、決勝トーナメントへ進む32台を決めるための予選がはじけに行われる。「高校の部」と「一般の部」のそれぞれで実施され、無事に完走し、なおかつ走行タイムの上位32台だけが予選を通過する。

その予選が終わった直後、「高校の部」がざわめいた。ここ数年その強さを見せ付けている、香川県立三豊工業高等学校や香川県立坂出工業高等学校などの四国勢をわずかに抑えて、長野県松本工業高等学校の「朱紅い羽根」がトップに立ったからである。

長野県松本工業高等学校の属する北信越地区には、ジャパンマイコンカーラリー常連の富山県立大沢野工業高校がある。

昨年までは、その大沢野工業に阻まれるような格好で、松本工業は全国大会にほとんどマイコンカーを送り込んではいなかった。それが、今年は北信越地区大会の上位を独占するほどの急成長振りを見せ、全国大会に意気揚々と乗り込んできたのである。

この背景には、昨年の北信越地区大会で松本工業が会場として使われたことがあると言われる。地区大会の出場者だけでなく、同校の多くの学生がジャパンマイコンカーラリーを目の当たりにし、そのおもしろさや奥深さに強く触発されたのかもしれない。

ただ、それは松本工業の躍進の一因に過ぎない。「朱紅い羽根」を駆る溝口誠くんが「大会に出るたびに、アイデアがわんさか出てきて」と語るとおり、松本工業の急成長の影には、学生たちの旺盛な製作意欲があった。実際、全国大会に持ち込んだ「朱紅い羽根」は12、13作目ということで、その年の最終形とも呼べる

ものだったようだ。

旺盛な製作意欲は、そのほかの学生も同じだったらしい。溝口誠くんたちが学校で試走していると、それに触発された学生がライブレマシンをすぐに製作してくるという。その製作力は「一週間あれば2、3台のライブレマシンが登場する」と言うほど高かったようだ。そうした校内での切磋琢磨の中から、地区大会を制し、全国大会でもベストタイムをたたき出すようなマイコンカーが生まれたのである。

しかし、ジャパンマイコンカーラリーは、純粋に走行タイムを競うロボコンではない。決勝トーナメントは、2台が同時に走行し、どちらが速い方が勝ち上がる。もちろんコースアウトは許されず、「どのくらいのタイムなら勝てるのか」というような、対戦相手との少なからずの駆け引きも必要となる。

予選でベストタイムをたたき出した松本工業の「朱紅い羽根」だったが、この決勝トーナメントで勝ちあがることはできず、